

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 27 年 11 月 30 日発行
第 30 号
発行人 校長 鈴木史良

学校自己評価の考え方

—— 学校評価で学校をよりよいものに創りあげる ——

日本の公立学校では、近年、組織マネジメントに基づく学校自己評価システムが導入されています。長期的なビジョンのもと、年度内に実現可能な目標を設定し、それについて年間を通して目標管理していく方法です。私も日本の勤務校で、この評価の研究指定校として実践を重ねてきた経験があります。また、ドバイ赴任時にも、世界水準の教育を目指すドバイ教育当局が、英国を参考に、このような評価システムを導入いたしました。

学校自己評価システムは、年間 2 回の P.D.C.A（計画・実行・評価・改善）のサイクルを基本に据えています。学校のねらいを達成するために課題となる事象を認識し、実効性のある改善策を遂行することにより、学校の総合的なパフォーマンス、子どもたち

ちに提供できる教育の質を高めていくことを目的としています。したがって、児童生徒、保護者及び教職員に教育評価アンケートをとり、本校の目指す教育がねらいどおりに実践されているかどうかを確認します。当初の目標を立てただけで終わりにするのではなく、きめ細やかに目標を管理し、達成度を高めていくためには、児童生徒、教職員、保護者それぞれの観点、立場からの振り返りが大切になります。その過程で明らかになった課題、問題点については、当該年度途中にすばやく改善策を立てて対処し、その実効性の有無を検証しながらフィードバックし、更に教育の質を高めていくのです。そのためのポイントを以下に示します。

<学校自己評価のポイント>

- (1) 年度初めに本年度の『学校のねらい』を明確にし、共有すること。

学校目標や育てたい子ども像が基本となる。しかし漠然としたものや曖昧なめあてにするのではなく、今いる子どもたちに必要であり、なおかつそのことが達成されたか、されないかが誰にも“見える”ものがよい。

- (2) 『学校のねらい』に沿ったアクション・プランが提示されること。

これも学校教育すべてを網羅するようなものにしてしまうと、かえってねらいがぼけてしまう。この 1 年間でこう指導した結果、子どもたちのあらわれがこう変わった、ということが“見える”ものが望ましい。

- (3) 当初立てたアクション・プランの遂行状況を一度明らかにし、不十分なところは改善策を実施して『学校のねらい』に近づくことができる校内システムがあること。

こういうシステムにするためには、年間 2 回の自己評価（7 月、12 月）が必要となる。同じ項目で行う自己評価アンケートなので、1 回目と 2 回目の変化がよくわかる。どんな指導が有効で、どんな指導が効果なかったかも知ることができ、教師の指導の幅を広げ、力量を高めることができる。

- (4) アクション・プランと児童生徒会の目標、めあてがリンクしていること。



雪に覆われた 11 月 25 日の朝

『学校のねらい』達成のための指導と子どもたちの組織のねらいやめあてがリンクしていると、教師、児童生徒がそれぞれの方法、創意工夫のもとで同じ目標に向かうことができ、達成に向かう力が加速する。

来年度は上記のような学校評価システムを、本校でも構築していきたいと考えています。そこで、今年度の学校評価を来年度につながる学校評価とするため、特に重点を置いた項目に絞ったアンケートを実施させていただきます。

以上の評価システムに第三者による外部からの評価が加わると、さらに精度が増すわけですが、この点につきましては今後の課題とさせていただきます。以下、今年度の学校評価アンケートの具体をお知らせいたします。

今年度 学校評価アンケートの概要

- 実施期間…… 平成 27 年 12 月 7 日(月)～ 14 日(月)
- 対 象 …… 児童生徒、保護者、教職員 (※記名アンケート)
- 評価方法…… 3 つに絞られた項目の中の各指標については、4 段階(A B C D)で評価する。それ以外の部分は自由記述する。
- 評価項目・指標について
評価項目は、子どもたちの学習面、生活面、それに学校全体の指導について 3 つに絞り、それぞれに評価指標を設けています。
 - 学習面・わかりやすい授業、子どもが意欲的に取り組む授業など、授業が充実しているかどうか。
 - ・個に応じた指導により、基礎基本となる学力が定着しているかどうか。
 - 生活面・あいさつ、へんじ、くつならべ、いす入れなど、基本的な生活習慣が育成されているかどうか。
 - ・相手を思いやる心やプラス言葉など、豊かな人間関係を築く基本を習得しているかどうか。
 - ・清潔で安全な学習環境が整っているかどうか。
 - 全 体・学校便りや学級通信、HP など、学校からの情報発信が十分なされているかどうか。
 - ・ふだんから学校に来やすい、また授業や行事などを参観しやすい雰囲気があるかどうか。
 - ・子どもたちや保護者の相談に、親身になって対応しているかどうか。
 - ・校外学習や学校行事など、スイスならではの学習活動が充実しているかどうか。

以上の観点のもとに、学習面、生活面では、子どもたち用、保護者用、教師用の言葉に直したアンケートを配付いたします。3 つめ、学校全体に関わるアンケートは、保護者、教職員のみで子どもたちにはありません。また、自由記述欄もございますので、ご活用ください。

本校は小規模校でもあり、十分な施設設備がある環境とは言えませんが、その中で創意工夫し、最大限の教育効果を発揮させていくのが日本人学校だと考えています。子どもたちの学びの環境が更に豊かになるような学校評価になることを期待しています。